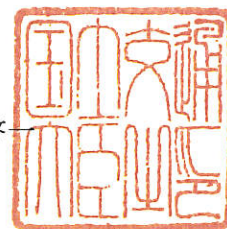


認 定 書

国 住 指 第 1654 号
平成 30 年 9 月 7 日

因幡電機産業株式会社
代表取締役社長 守谷 承弘 様

国土交通大臣 石井 啓



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PS060WL-1020
2. 認定をした構造方法等の名称
ケーブル・電線管・給水管・排水管／化粧材付黒鉛含有ブチルゴムシート・
シーリング材充てん／壁準耐火構造／貫通部分
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

ケーブル・電線管・給水管・排水管／化粧材付黒鉛含有ブチルゴムシート・シーリング材充てん／壁準耐火構造／貫通部分

2. 寸法等の仕様：

寸法等の仕様を表1に示す。

表1 寸法等の仕様

項 目		仕 様
開口部	形状	円形 (φ110mm以下)
	面積	0.0095m ² 以下
配管と壁との隙間の寸法 (クリアランス)		3～10mm
占積率 (開口面積に対するケーブル・配管の断面積 の総合計の割合)		87.9%以下
貫通する壁の構造等		建築基準法施行令第129条の2の3第1項第一号ロの規定に基づく準耐火構造 (60分) 又は建築基準法第2条第七号の規定に基づく耐火構造 (60分) (ただし、強化せっこうボード及び軽量鉄骨下地に限る) 厚さ100mm以上

3. 主構成材料の仕様：

主構成材料の仕様を表2に、ケーブル・配管等の仕様を表3に示す。

表2 主構成材料の仕様

項 目		仕 様	
熱膨張性シート		材料	化粧材付黒鉛含有ブチルゴムシート
		寸法	総厚さ：1mm以上 幅：50mm以上 (埋設部50mm以上) ただし、裏面材は露出部側に10mm以下伸ばしてもよい
		使用箇所	配管等に1周+10mm以上巻き付け ただし、以下の配管の場合、次の条件とする 1) ポリエチレン管の場合は2周+10mm以上巻き付け 2) 被覆付架橋ポリエチレン管の場合は2周+10mm以上巻き付け
	表面材 (充てん材側)	材料	あり又はなし ①～③の一 ①ポリオレフィン系繊維強化アルミニウム系テープ ②アルミニウム系テープ ③ガラス繊維強化アルミニウム系テープ
		厚さ	0.3 (±0.15) mm以下
	シート	材料	黒鉛含有ブチルゴムシート
		厚さ	1mm以上
		密度	
		組成 (質量%)	
	裏面材 (配管側)	材料	あり又はなし ①～③の一 ①ポリオレフィン系-ポリエステル系積層フィルム ②ポリエステル系フィルム ③ナイロン系フィルム
		厚さ	0.05 (±0.03) mm以下
充てん材	材料	建築用シーリング材 (JIS A 5758) 種類：シリコーン系	
	充てん量	隙間に密に充てん (壁の両側に22mm以上)	

表3 ケーブル・配管等の仕様

項 目		仕 様				
ケーブル (電線)	導体 (又は芯線) の断面積	1本あたり	1. 25mm ² 以下			
		総合計	3. 75mm ² 以下 (銅等の金属類)			
	総有機量	0. 010kg/m以下				
	導体 (又は芯線) の種類	銅、ガラス繊維、その他これらに類する不燃性の材質				
	絶縁体	ポリエチレン系	厚 さ	0. 5mm以下		
塩化ビニル系						
ポリオレフィン系						
合成ゴム						
配管等	配管等の種類 (電線管・配管 給水管・排水管・さや管・挿入管)	合成樹脂製可とう電線管 (JIS C 8411) (CD管、PF管)	外 径	φ 36. 5mm 以下 (PF 管) φ 42. 0mm 以下 (CD 管)	厚 さ	—
		さや管 (合成樹脂製可とう管) (JIS C 8411 CD 管に適合した性能) 材質：ポリエチレン樹脂		φ 42mm 以下		—
		架橋ポリエチレン管 (電線管又はさや管に挿入できる) (JIS K 6769、JIS K 6787、JXPA401 (架橋ポリエチレン管工業会規格) 又はこれらの規格に適合した性能 (引張降伏強さ、耐圧塩素水性、ゲル分率) を有する管)		φ 27. 0mm以下 φ 13. 0mm以下 (3本以下)		3. 55mm以下
		ポリブテン管 (電線管又はさや管に挿入できる) (JIS K 6778)		φ 27. 0mm以下 φ 13. 0mm以下 (3本以下)		2. 9mm以下
		被覆付架橋ポリエチレン管 管：架橋ポリエチレン管 (JIS K 6769、JIS K 6787) 被覆：オレフィン系不織布		φ 31mm以下 (管 φ 27. 0mm以下)		5. 25mm以下 (管3. 25mm以下、 被覆2. 0mm以下)
		さや管発泡ウレタンフォーム付きポリブテン管 さや管：ポリエチレン樹脂 管：ポリブテン管 (JIS K 6778) 被覆外層：ポリエチレン樹脂 被覆内層：ウレタンフォーム		φ 34. 5mm以下 (管 φ 27. 0mm以下)		4. 95mm以下 (管2. 9mm以下、 被覆2. 0mm以下)
		補強層付高耐熱フッ素樹脂ホース (電線管又はさや管に挿入できる)		φ 14. 6mm以下		2. 3mm以下
		ポリエチレン管 (JIS K 6761、JIS K 6762、JIS K 6774、ISO 4427、日本水道協会規格：JWWA K 144、建築設備用ポリエチレンパイプシステム研究会規格：PWA001、同：PWA005、配水用ポリエチレンパイプシステム協会規格：PTC K 03、給水用ポリエチレンパイプ協会規格：JP K 001)		φ 90. 0mm以下		8. 2mm以下

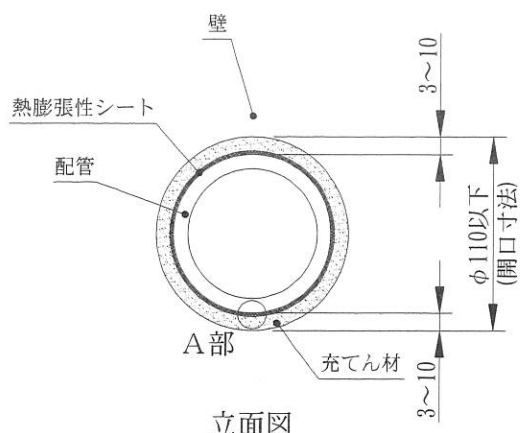
つづく

つづき

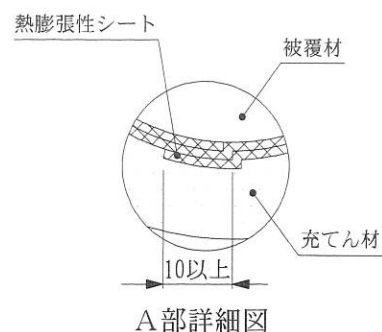
被覆材 (あり又はなし)	発泡ポリエチレン系		外 径	φ 66mm以下 (仕上り外径)	厚 さ	10mm以下
	発泡架橋ポリエチレン系					
	発泡ポリウレタン系					
	発泡ポリスチレン系					
	発泡ポリプロピレン系					
	発泡フェノール系					
	発泡難燃ポリオレフィン系 (酸素指数28以上)					
	グラスウール (JIS A 9504)					
	ロックウール (JIS A 9504)					
	発泡合成ゴム系 (ニトリル、ブチルゴム)					
	使用方法	必要に応じて、配管 (架橋ポリエチレン管、ポリブテン管が挿入されている合成樹脂製可とう電線管、さや管に用いることが出来る				
ラッピング (あり又はなし)	材料	アルミニウム箔貼ポリオレフィンフィルム				
	寸法	厚さ0.03mm以下				
	使用方法	必要に応じて、さや管又は電線管内に挿入される配管 (挿入管：φ 13mm 以下の架橋ポリエチレン管又はポリブテン管) を複数本束ねその周囲に巻き付ける				

4. 構造説明図：

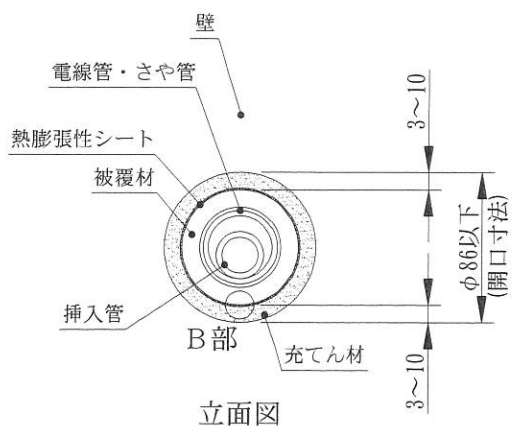
構造説明図を図1及び図2に示す。



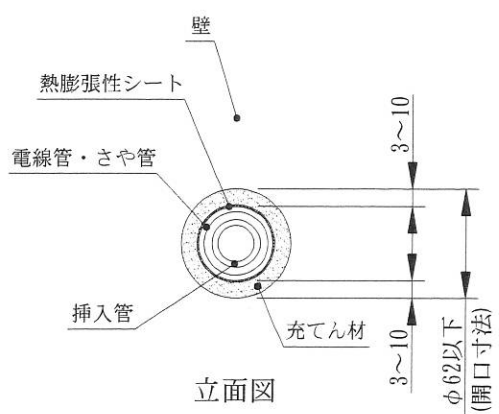
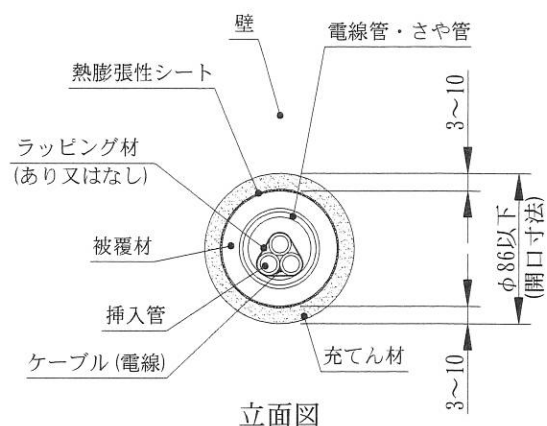
(ポリエチレン管及び被覆付ポリエチレン管の場合)



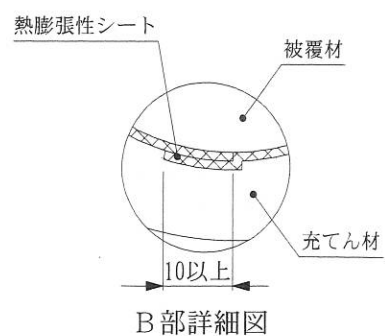
熱膨張シートの重なり代部詳細



(電線管又はさや管に被覆材を用いる場合)



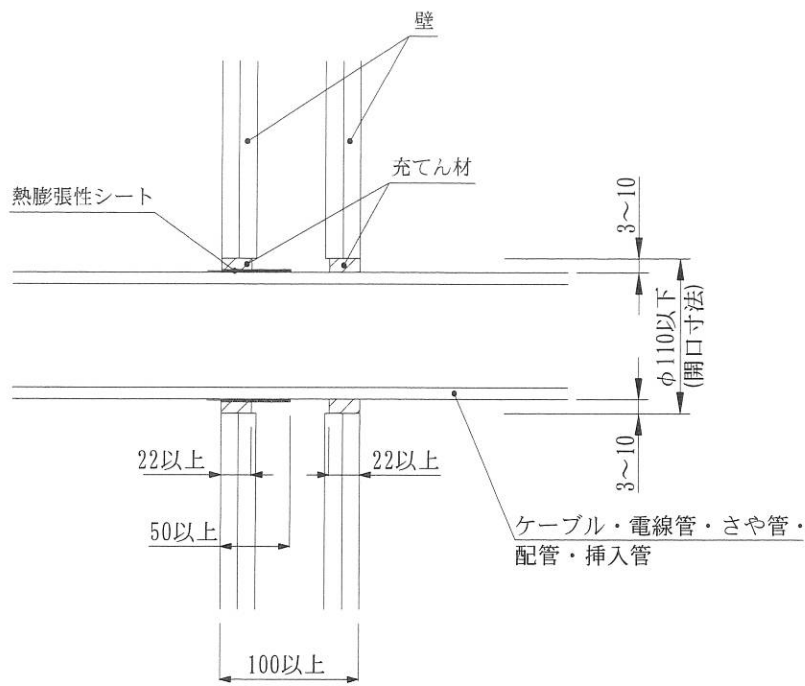
(挿入管が単管の場合)



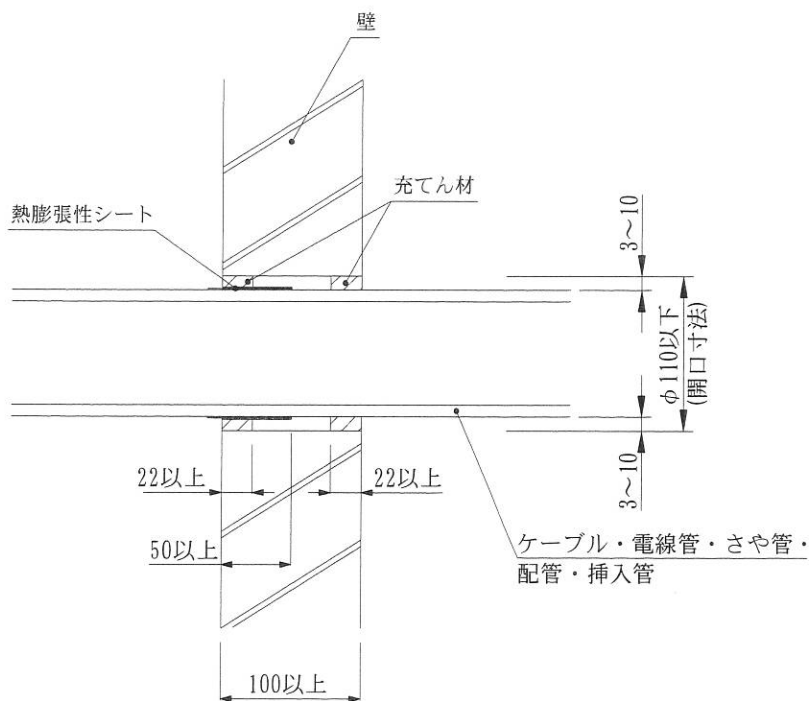
熱膨張シートの重なり代部詳細

注) ケーブル・電線管・さや管・配管・挿入管の配置の一例を示す

図1 構造説明図(施工図)



断面図
(中空壁の場合)



断面図
(中空壁以外の場合)

注) ケーブル・電線管・さや管・配管・挿入管の配置の一例を示す

図2 構造説明図(施工図)

5. 施工方法：

施工は以下の手順で行う。

- (1) 貫通開口部の設定
ボイド管やコアドリル等を用いて貫通孔を設ける。
- (2) ケーブル・配管等の設置
ケーブル・配管等サイズ、本数及び占積率を考慮して貫通開口部に、ケーブル・配管等を設置して支持・固定する。
- (3) 熱膨張性シートの巻き付け
熱膨張性シートを配管に対して一周+10mm以上巻き付け(ただし、ポリエチレン管及び被覆付架橋ポリエチレン管の場合、2周+10mm以上巻き付け)で裏面材を破りシート部を張付けて固定する。
この時、熱膨張性シートと配管との間に隙間がないように注意し確認する。
- (4) 熱膨張性シートのスライド
熱膨張性シートを配管に沿わせて熱膨張性シートの先端が壁面と同一面になるようにスライドさせる。ただし、裏面材は露出部側に10mm以下伸ばしてもよい。
- (5) 埋め戻し
貫通開口部と熱膨張性シートの隙間に、壁厚方向22mm以上充てん材で埋め戻しする。
埋め戻し部に隙間が無いことを確認して仕上げる。